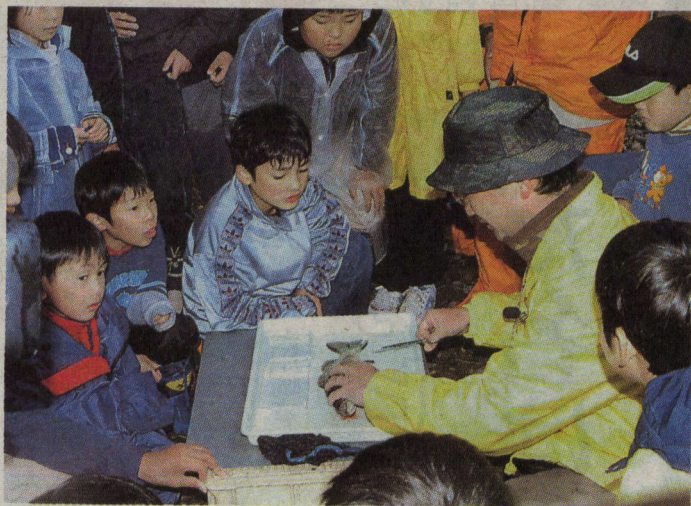


釣り楽しみ生態系勉強

福島 バス・バスターズ 児童ら参加

外来魚の悪影響理解



バスの解体を見守る子どもたち

外来魚が河川に及ぼす悪影響を知ってもらおう「バス・バスターズ」は五月三十一日、福島市鎌田の阿武隈川で開かれ、子どもたちがブラックバス釣りや試食を通じて、生態系の仕組みや命の大切さを学んだ。

国土交通省、県、阿武隈川漁業協同組合でつくる外来魚対応連絡会の主催。違法な放流などで繁殖した外来魚が在来魚類の生息に悪影響を及ぼす問題が全

国的に広がっている現状を受け、外来魚の生息が多数確認されている阿武隈川でも現状を知ってもらうのが目的。小学生と保護者約五十人が参加した。

県内水面水産試験場の佐久間徹主任研究員、難波謙二福島大共生システム理工学類准教授らが講師を務めた。ブラックバスなどの外来魚の駆除を目的とした釣り大会を実施した後、食物連鎖などを学習した。

釣り上げたブラックバスは解体してフライに調理し試食、命の尊